第51号　発行日　2013年10月20日

工学院大学 孔子学院ニュース

５回目の国際交流サマーキャンプ

北京航空航天大から１５人が参加

工学院大学のパートナー校・北京航空航天大学（北京、略称・北航）と工学院大学が共同して繰り広げる「国際交流サマーキャンプ」が、8月21日から5日間、工学院大学の富士吉田ハウスと八王子キャンパスで行われました。

このサマーキャンプは今年で5回目で、北航から、学生12人と教職員3人の計１５人からなる代表団が来日しました。工学院大学では、ボランティアの学生と教職員の計 23 人、孔子学院からも教職員2人がお迎えしました。

富士吉田ハウスでは、「学生生活の紹介」、「日中の文化紹介」、「盆踊り体験」というテーマで、交流会が行われました。両校の学生たちは、日ごろの生活ぶり、勉強のやり方などを紹介しあい、共通点や相違点などを理解し、日中間の学生の距離を縮めました。

北航の学生は、太極拳や中国詩の朗読、歌唱など披露し、引率者の丁丁先生も、中国の民族舞踏を情熱的に演じ、会場を一層、盛り上げました。

日本の学生も、茶道や剣道、楽器演奏などを行いましたが、その演出ぶりは、中国の学生の間でも、評判になりました。

北航の学生は、孔子学院から贈られた浴衣に着替えて、日本人の学生と一緒に盆踊りを体験し、互いにプレゼントを交換し、友情を深めました。夜のバーベキューは、料理長自慢の美味しい料理で、穏やかな雰囲気の中で、参加者のだれもが、楽しい時間を過ごしました。

滞在中、富士山麓の富士ビジターセンターを見学し、富士山の歴史や文化を知ることで、日本の文化を更に深く、学ぶことができました。

八王子キャンパスでは、北航の学生は、工学院大学の 20 回目の科学教室イベントに参加しました。北航の学生が中国から持って来た400機のゴムの動力飛行機とヘリコプターの操縦機の工作は、日本の小学・中学生に人気があり、こどもたちの素直な笑顔は、とても印象的でした。

サマーキャンプの最終日、北航の代表団は、工学院大学の新宿キャンパスと孔子学院を訪問し、孔子学院では、西園寺一晃・院長にあいさつしました。

五日間のサマーキャンプは、あっという間に終わりましたが、とてもいい思い出になりました。参加者の心の中に永遠に残るはずです。こうしたイベントによる、日中相互の文化の触れ合いで、

心と心を繋ぐ大切さを実感しました。参加者全員の同じ夢――それは、日中の友好が、永遠に存続することです。　（金　海燕）

9 月の孔子サロンのテーマは「典雅なる都市　上海」

講師の黄淑柔さんは、中央人民広播電台の公認ウェブサイト「VOICE of CHINA」（http://voiceofchina.jp/）のマネージングディレクターとして、中国の最新情報を日本語で発信していらっしゃいます。サロンでは、黄さんが企画・制作、プロデューサーを務めた BS ジャパンの番組「典雅なる都市　上海」を鑑賞しました。かつての外国人居留地、外灘で人気のお洒落なカフェやバー、世界のセレブが愛用するチャイナドレス店のオーナー紹介など、東洋と西洋、旧いものと新しいもの、多様なスタイルを巧みに融合しながら変化し続ける国際都市・上海の魅力を堪能しました。

華僑二世として横浜で育ち、二つの文化の深い理解をベースにマスコミ界で活躍する黄氏、目利きの選りすぐった上海ガイドに旅心を大いにくすぐられた一時間でした。

11 月のサロンは 16 日（土）14：00～15：00、テーマは「中国結婚事情」を予定しています。講師自身の体験談を交えた現代中国のホットな結婚事情をお伝えします。どうぞお楽しみに。（事務局）

北航便り　～北航の中国語クラス～

前回までは、北京航空航天大学のハード面をお伝えしてきましたが、つづいてソフト面のご紹介です。北京航空航天大学は、皆さんもご存じの通り、中国四大学と引けをとらないほど高い偏差値を誇る大学です。したがって、学生達の素養・教養、道徳心の高さは言うまでもありません。もちろん、国際学院で教壇に立たれる先生方の指導法も、的確かつ明瞭で、真面目に授業にさえ出席していれば、自宅学習をせずとも、自然に中国語が身に付くといった、驚異的教授法を展開して下さる先生方ばかりです。私自身も日本語教師という立場でありながら、先生方の指導法を目の当たりにし、中国語習得以外にも学び得るもの、体感させられるものがたくさんありました。私は、前期・後期とあわせて「精読」「口語」「聴力」「閲読」を、それぞれ中級班で学びました。後期には、工学院大学孔子学院郭莉萍前副院長のクラスに入り「精読」の授業を受けたのですが、郭先生の中国語指導はもちろんのこと、郭先生の“学習者を飽きさせない”教室活動の雰囲気作りには深く感銘を受けました。“一流の教師とは、郭先生のような教師を指すのだ”と、私も言語教師の端くれとして、日々切磋琢磨せねばと、今後の大きな励みにもなりました。

留学期間中、国際学院の先生方（９名）が有志で参加する通称“特設日本語クラス”と、北航付属中学の選択日本語クラスで日本語を教えていました。反日感情が高まる情勢下ということもあり、中国国内における日本語学習者数もかなりの割合で減ってきていると聞いていたため、北京で日本語を教える機会があるとは、正直夢にも思っていませんでした。しかし、付属中学の選択クラスも定員割れすることなく生徒が集まり、国際学院の先生方も、“他言語の理解は、自身の中国語教育に大いに有用だから”と、忙しい合間をぬって、積極的に参加して下さいました。当時、北京で生活していた日本人は、きっと誰しもが、肩身の狭い思いをしたことでしょう。しかし、そんな実情とは裏腹に、日本語ないしは日本文化に興味を抱き、それを理解しようと前向きに取り組もうと、熱

心に授業に参加して下さる方々の姿を目の当たりに出来たことは、この上ない喜びと、有り難い気持ちでいっぱいでした。今回の留学は、申請手続きから修了するまでの間、多くの方々の協力があったからこそ成し得ることが出来た、云わば“ご恩の賜物”です。このご恩に見合うだけの学習成果を上げられたか否かは、私の判断ではできかねるのですが、今後何らかの形で報いることで、ご恩返しをしていきたいと思っています。私の中国語学習は、まだまだスタート地点に立ったばかりです。今回の留学を糧に、今後も更なる中国語向上を目指し、学習に取り組んでいきたいと思っています。最後になりますが、工学院大学孔子学院の皆々様方に、無事帰国の途に就けたご報告と、このような機会を与え、お導き下さったこと、心より厚く御礼申し上げます。

北　航　来　信

～在　北　航　学　习　中　文～

接着，下面我来介绍软环境。如大家所知道的，北航的偏差值很高，与中国四大大学做个比较，不会不亚于任何学校。因此，对于学生们的素养、教养及文明礼貌相当高。当然，国际学院老师们的教学法也是的确明了，她们都指导有方，学生只要认真上课，即使不做自习，也就能够自然成就学会汉语。作为一名日语教师，从语言教师的立场来听她们的课，除了汉语以外，还学到了很多东西并体会到了很多事情。前学期与后学期，我在中级班上了精读、口语、听力和阅读课。在后学期，我进工学院大学孔子学院郭莉萍前副院长的班上她的精读课。郭老师的对外汉语教学方法还不用说，对她的课堂教学设计特别精彩，每节课都使学生们集中注意力，排除干扰，自觉地投入到学习中去。她讲起课来有声有色、亦庄亦谐，很受学生欢迎。我们班的同学也都仰慕她。

在留学期间中，我对国际学院的老师们以及北航附属中学的学生们教学日语。听说随着抗日感情激昂，日语学习者也日趋减少的趋势，我没想到在北京有机会家学日语。跟我预料相反，附属中学的日语选修课没有低于定额按预定计划进行下去了。还有，国际学院的老师们不约而同地说：理解其他语言是对自己的对外汉语教学挺有用的。她们在百忙之中抽出时间来，积极参加了日语课。当时，住所北京的大多数日本人恐怕感到委屈。可是，跟这样的事情相反，我可以看到了她们对日语或日本文化产生了兴趣，为了深入了解这些东西，以积极地态度听课时，我满心欢喜和感谢。这回我的留学，从头到尾，有了许多人的配合和支援，才能够实现的就是诸位的恩赐。我向工学院大学孔子学院领导及各位老师、为我给予这样好机会的有关各位衷心表示感谢。

（工学院大学孔子学院　奨学金生　高橋 美智子）

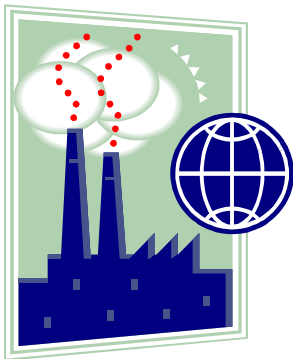
中　国　の　最　新　情　報　(40)

経済成長と環境保全は永遠の矛盾なのかと思う。日本の成長は１９５０年代末頃から始まり、６０年代は軌道に乗り、７０年代は高度成長、８０年代はバブルと言われる超高度成長となった。その一方で、成長開始の２０年後の７０年代に「公害」問題が顕在化した。四日市喘息問題、水俣病問題など周知の通りだ。

中国の成長（改革・開放）が始まったのは、日本に遅れること２０年の１９７０年末、その２０年後の１９９０年代に「環境破壊」が顕在化した。中国も日本と同じ道を歩んでいると言える。

現在ＰＭ２．５問題が深刻化している。メディアでは北京が問題になっているが、全国の大都市の状況は似たり寄ったりである。ＰＭ２．５とは、大気中に漂う微粒子のうち、直径２．５マイクロメートル以下と特に微小のもの。髪の毛の太さの３０分の１という小ささで、普通のマスクは通してしまう。主要な発生源は、工場の煤煙、車の排気ガスなどだ。

中国は来年ＡＰＥＣ首脳会議を北京で開く予定なので、大気汚染対策には躍起となっている。



中国政府はこのほど、北京市、天津市、河北省、山西省、山東省、内モンゴル自治区の６地域にそれぞれ５０億円、合計８００億円の対策費を投じることを決めた。その上で①汚染物質の排出減量、②汚染管理対策、③ＰＭ２．５濃度の低下の３項目で、６地域に競わせる。すでに各地域では具体的措置を決めた。例えば排出基準に合わない旧型車両、石炭ボイラー、重工業工場、火力発電所の廃棄と制限、汚染物質排出の企業、工場リストの公開などである。

中国にとって、日本の環境技術は喉から手が出るほど欲しい。日本にとってはまたとないビジネスチャンスだ。にもかかわらず、両国関係の悪化でうまく行かない。実に残念なことだ。

（西園寺　一晃）

鉄道から中国が見える(23)　中国の鉄道模型

今年 7 月の孔子学院サロンは「模型で楽しむ中国の鉄道」と題して、近年発展が著しい中国の鉄道について、1980 年代から現在に至る鉄道模型を走らせながら、その発展の経緯を解説させていただいた。模型は HO ゲージと呼ばれる縮尺 1/87、軌間 16.5mm のもので、蒸気機関車から最近の CRH 動車組（電車）まで揃えて年代順に運転、30 名を超える参加者からご好評をいただいた。用意した模型の九割以上は中国製である。

連載前回にも書いたが、中国では人口の割に鉄路迷（鉄道好き）が極めて少ない。さらに鉄道模型となると、中国国内に需要がどれほどあるのか疑問である。最大手は Bachmann（百万城）というメーカーだが、アメリカ・ドイツ・イギリスの車両が中心（客層は欧米人）で、中国の車両は片手間に作っている感は否めない。取扱説明書は英語・中国語で書いてあるが、中国モノを買う客層（筆者はその一人だが）は皆目見当がつかない。もしご興味のある読者は下記のサイトにアクセスしてみていただきたい。

Bachmann ホームページ：　http://www.bachmannchina.com.cn/
鉄道模型店（東京）Models IMON：　http://www.imon.co.jp/
通販サイト Models Shima：　http://www.45mm.jp/page121.html

一昨年のクリスマス、上海から北京に夜行列車（寝台高速列車 CRH2E）で移動するため市街地の上海駅に行ったところ、駅ナカに Bachmann の店舗があるのを発見、発車まで時間はたっぷりあるので店に入ってみた。想像通り店内に客はほとんど居らず、店番のオバチャンに会釈した瞬間、「この客、脈あり」と眼を付けられしまった。筆者の傍らに来てあれこれ説明し、筆者がいい加減な中国語で応えるものだから、彼女の説明はますますテンションが上がり、何も買わずには店を出

られないような雰囲気になってしまった。

そこで、筆者が 1983 年初訪中の時に乗った列車を牽引したディーゼル機関車 ND2 型（実物はルーマニア製）を買うことにした。彼女は「ずいぶん渋いのを買うのね」みたいな顔をしてショーウィンドーの鍵をあけ、数両出してきて所属機関区の表記が何種類かあると言う。筆者が「沪段」（上海機関区）と指定すると「やっぱりそうよね」みたいに納得して商談成立、7 月の孔子学院サロンでは開演前の試運転列車を牽引して活躍した。

孔子学院サロンに登場した 80 年代の客車と和諧号動車組

（ディスカッション中国語 早朝コース受講生　辻村　功）

クラス便り

今月は、「総合中級(中級Ⅰ-2)」（毎週土曜日 10：30～12：00)孫先生のクラスをご紹介します。

中国語を学び始めて、最初のうちは市販のテキストを頼りに文法事項などを独学で学んでいました。
初級の後半になり、学習開始当初の「学習量に応じた実力アップ感」もなくなってきて、どのような内容を、どのように学習すればよいのか迷い始めていたところで、孔子学院の中国語講座の存在を知り受講することにしました。毎週の授業についていけるように予習をすることが、学習内容の指針となり、学習ペースの維持につながっています。また、作文等の宿題が出され、翌週の授業で発表することがあり、自分の実力の確認の機会になり、モチベーションが高まります。授業は比較的少人数のクラスでリラックスした雰囲気で行われ、また、受講生仲間にも恵まれ、毎週出席するのが楽しみとなっています。

（総合中級(中級Ⅰ-2） 受講生　加納敏行）

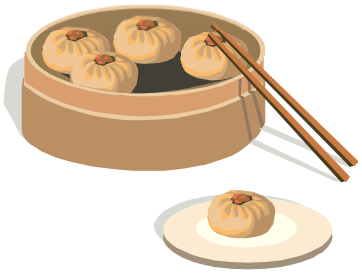
楽しく中国語の勉強に励んでいます。孫先生の授業では、中国の若い世代の間で流行している新語や、インターネット上で使われることが増えた単語などが、授業で扱われることがあります。教科書の内容はもちろん、変化しつつある「今の中国」を知ることができる授業です。

中国語で作文を書いて発表したり、自分の好きな中国語の歌を選んで、歌詞を発表するなどの時間もあり、残念ながら、仕事の都合で欠席が多くなってしまっているのですが、出席するのが楽しみでした。

受講生同士の距離も近く、クラスの雰囲気もアットホームで、おすすめの講座だと思います。

（総合中級(中級Ⅰ-2） 受講生　Y.K）

中　国　の　料　理　と　酒



今回は「飲茶」を紹介します。「飲茶」は標準語では yincha と発音しますが、一般的には広東語の「yamcaa(ヤムチャ)」で通っています。それは「飲茶」の習慣が広東省など江蘇省、福建省、香港、マカオ、台湾など南方を中心に発展、普及してきたからです。

飲茶の起源は唐の時代まで遡りますが、その頃はあくまでお茶を飲むのが中心で、お茶うけとしてナッツや菓子類が食べられていました。しかし明代になると揚州付近で料理が発展し、多くの点心（小菜）が作られるようになり、お茶うけも贅沢になりました。点心は３つに分けられます。いわゆる「ツマミ」は楽花生（落花生)、瓜子（スイカやカボチャの種）甘栗、干し果物など、「鹹点」は塩味のもの、餃子、包子（アン入り饅頭)、シュウマイ、春巻など、「甜点」は甘いお菓子類です。その他麺類や餅、ビーフンなども点心です。店では点心を蒸篭に入れて運んでくれます。店によっては、従業員がさまざまな点心の入った蒸篭をキャスターに積んで客の間を回り、客が自由に選ぶという方式を採っています。

この点心の故郷は江蘇省揚州です。「魚米之郷」と言われる豊かなところで、現在でも清朝時代から続く「富春茶社」、「冶春茶社」などの名店があります。揚州で飲まれるお茶の主流は緑茶で、「龍井茶」が好まれます。一方、福建省では断然武夷山系で採れる「烏龍茶」、広東省や香港では「普耳茶」を中心に烏龍茶、菊花茶などが好まれています。広州に行かれた折には是非飲茶で有名な「北園酒家」、「泮溪酒家」に寄って下さい。

餐庁（レストラン）や茶店（中国式喫茶、軽食屋）で気軽にお茶と点心を楽しみながら、世間話に花を咲かせるのは南方中国人の不可欠の習慣です。　　（西園寺　一晃）

１０月の諺「桂花（guì huā）」

晩秋、向寒の季節になりました。朝夕、一段と冷え込み、日ごとに冷気が加わり、過ぎゆく秋の寂しさが、身にしみます。

中国の二十四節気によれば、季節は、「霜降」から「立冬」へと移ります。この秋、2020 年の東京五輪の開催が決まりました。オリンピックは、金・銀・銅のメダルを競いますが，木犀も、金木犀と銀木犀が、その名前を競っているようです。

「桂花（金木犀)」はその香りが強烈で、周りに刺激を与えて、全身を活性化してくれる秋の名花です。日本の諺の「木犀、金も銀も香りは同じ」とは、この種の木の香りは、金銀の色に関係なく、どちらも素敵な香りを漂わせる、との意味です。「木犀は金より銀が珍らし」とは、銀木犀の方が数が少なく、輝いて見えることから、こういいます。

中国の諺「桂子飄香(guìz□piāoxiāng)」は、初唐に活躍していた宮廷詩人・宋之問の『靈隠寺』の有名な一句で、後世に詠み継がれています。

「桂子月中落(guìz□yuèzhōngluò)，天香雲外飄(tiānxiāngyúnwàipiāo)」は、伝説によると、秋の季節が到来すると、木犀の実が、月から落ちる。妙なる天上の香りが、雲外に漂って、この世に来る、との意味です。

「桂林一枝(guìlínyìzhī)」とは、昔の科挙試験で合格した特に優秀な人をいいます。

秋が深くなると、どこからともなく、甘い香りが漂ってきます。中国人はいま、茉莉花茶に次いで、「桂花茶」「桂花烏龍茶」も、愛飲しています。「桂花酒」「桂花膏」「桂花醤」などの名物もあります。秋は、桂花を大いに楽しみましょう。　　（烏　之玲）

文章校正：工学院大学オープンカレッジ長　　松村崇夫

編集後記：孔子学院創立 5 周年、日中平和友好条約締結 35 周年を記念する公演が、10 月 22 日、アーバンテックホールで行われました。ホールは満席で、予備椅子を追加するほどでした。日本と中国のアーティストの共演、京劇と変面と、素晴らしい公演が続きましたが、圧倒されたのは、変面です。手を一切使わず、一瞬にして顔が変わるため、どんな仕掛けなのか必死に目を凝らしましたが、全くわかりませんでした。中国伝統の秘儀の奥深さに、ただただ圧倒させられるばかりでした。来場くださった皆様、ありがとうございました。

（工学院大学孔子学院事務局　軍司葉子）

◆10 月期　中国語・文化講座受付中◆

中国語講座		文化講座	
中国語基礎（入門）（初級）	中国語会話（初級）（中級）	楽しく丁寧に学ぶ漢文	水墨画
中国語で話そう	漢語聴説Ⅱ	漢詩入門	香道
翻訳クラス	親子で中国語	篆刻	中国茶の楽しみ方
ディスカッション中国語	テレサテンの歌講座	中国書法	曽紅さんに学ぶ「腹式細胞呼吸法」
小説を読もう	おもてなしの中国語会話	二胡教室	

申し込み受付中です。孔子学院の受付窓口、ホームページ、電話、FAX、からお申込みください。

◆工学院大学孔子学院　五周年記念講演会◆

11 月 5 日（火）14:30～16:30　入場無料・要申込（先着 100 名）

「中国の宇宙開発と実生活への応用」

講師：北京航空航天大学　教授　翁敬農先生

@工学院大学中層棟 4 階

※講演は中国語で行われますが、日本語の通訳がつきます。

◆中国問題を読み解く（ＮＰＯ法人東京都日中友好協会共同連続講座）◆

11 月 20 日（水）14:30～16:00

「転機に立つ中国経済」−習近平・李克強体制の苦悩

講師：　西園寺　一晃（工学院大学孔子学院　学院長）

受講料:一般 1,500 円　学生 500 円

場所:エステック情報ビルB1　工学院大学孔子学院

※10 月 16 日、台風のため延期となった下荒地先生の講座「最近の中国の対中南米外交」は、1 月に延期となりました。

◆孔子学院サロン◆

11 月 16 日（水）14:00～15:00 **「中国結婚事情」**

講師：工学院大学孔子学院　研究員　金海燕

受講料:一般 500 円　友の会　会員 300 円

場所:エステック情報ビルB1　工学院大学孔子学院

工学院大学孔子学院
CONFUCIUS INSTITUTE AT KOGAKUIN UNIVERSITY

学院長：西園寺一晃
副学院長：李順剛
副学院長：榎本淳一

〒163-8677 東京都新宿区西新宿一丁目 24 番 2 号
電話　03-3340-1457　FAX　03-3342-3150　E-mail　cik@kogakuin.ac.jp
URL　http://cik.kogakuin.ac.jp/